

議題 2. 2023 年度事業報告 概要

2023 年度に計画された事業への取り組みについて、概要を以下にまとめた。詳細は資料でご確認いただきたい。

- ・ 総務会では、第 94 回（2023 年度）総会の開催、第 95 回（2024 年度）総会の準備、地区会事務局連絡会議、委員会委員長会議、地区会への理事出席など定例の事業を進めたほか、オンラインで議決権の行使が可能なシステムの検討、奨学基金の使い方について検討、中期財政計画の検討などに取り組んだ。現状の役員選出方法については、会長から評議員会に諮問することになりそのための準備作業にあたった。また JMLA 会員による能登半島地震被災地支援のサイト作成、広報に努めた。
- ・ 総務会管轄の医書電子化検討ワーキンググループでは、日本医書出版協会との懇談を継続するとともに、医書ジェーピー社とも医書.jp eBook アラカルトに関する意見交換を継続した。
- ・ 総務会管轄の著作権問題検討ワーキンググループでは、著作権に関する内規の改定案を作成したほか、委員会事業で生じる著作権関係の問題について相談に応じた。
- ・ 総務会管轄の国際交流ワーキンググループでは、韓国医学図書館協会に今後の交流について打診、コロナ禍以前の形式に戻す方向であることを確認した。台湾医学図書館協会とはオンライン会議の機会を設け、交流に関する相談をした。また米国医学図書館協会との交流の今後の方針について検討した。
- ・ 企画・広報委員会では、ウェブサイト更新、第 94 次（2023 年度）会員統計の集計と公開、重複雑誌交換、国立国会図書館への寄贈資料送付に取り組んだ。
- ・ 機関誌「医学図書館」編集委員会では、「医学図書館」4 号を定期刊行し、コロナ禍の影響を受け遅れる傾向にあった編集作業スケジュールの適正化に努めた。また韓国医学図書館協会から機関誌「Journal of Korean Medical Association」創刊 50 周年記念誌への寄稿依頼を受け、原稿を送った。
- ・ 出版委員会では、2023 年 3 月に刊行した『わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド 検索事例付 第 2 版』を、会員特典の一環で初めての試みとして、すべての会員に配布した。
- ・ 学術情報コンソーシアム委員会では、JPLA と合同で 19 社 75 件の提案を獲得した。ジャーナルやブックだけでなく、転換契約や購読ジャーナル分析ツールなどの新しいタイプの提案がみられた。円安は 2022 年よりもさらに進む事態となったため、会員館に対してコンソーシアム提案を取り巻く状況説明と契約の対応についての呼び掛けを行った。
- ・ 教育・研究委員会では、JMLA コア研修、JMLA 学術集会、図書館総合展フォーラ

ムをオンラインで開催した。研究助成・海外研修助成への応募はなかった。医学中央雑誌刊行会受託事業費で、動画「医中誌 Web と PubMed 検索」を作成、公開した。

- ・医療・健康情報委員会では、「医療・健康情報ブックリスト」の試行を行った。また全国患者図書室実態調査（仮）の実施に向けて、準備を進めた。
- ・認定資格運営委員会では、予定どおり 2 回の申請募集を行い、合計 24 件の申請について認定審査をした。ポイントの見直し、認定資格制度の評価についての意見交換をした。
- ・受託事業委員会では、受託事業を推進した。診療ガイドラインワーキンググループでは 16 件のガイドラインを新規に受託した。診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループはオンラインでワークショップを開催した。医学中央雑誌刊行会受託事業については、教育・研究委員会と相談し、E ラーニング動画「医中誌 Web と PubMed の検索」を作成した。
- ・協会賞・奨励賞選考委員会では、2023 年度受賞候補の選考を行った。ホームページ担当ワーキンググループへ協力を得て、協会賞・奨励賞の受賞者一覧の英文ウェブサイトを作成、両賞ブランディングの向上に資する情報発信準備を行った。
- ・組織・制度委員会では、諸規則の改定を行った。定款、規程、細則、内規の序列について検討し、序列に合わない規程以下の名称を変更した。改定された規程類については、最新版を本会ウェブサイトへ掲載した。
- ・病院部会では、定例会と見学会を開催した。

議題 2. 2023年度事業報告

I. 総務会

1. 委員

担当理事 阿部 潤也（東歯大）、城山 泰彦（順大）、児玉 閲（専務理事・個人）、佐藤 晋巨（聖路加）、田口 宣行（埼玉大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第 1 回 4 月 10 日（Web 開催）
- 第 2 回 7 月 31 日（対面開催）
- 第 3 回 10 月 19 日（対面開催）
- 第 4 回 2 月 26 日（対面開催）

2) 事業達成状況

- (1) 2020 年度～2023 年度重点事業目標を進めるとともに、達成状況を報告するための総括（案）作成に着手した。
- (2) 第 94 回（2023 年度）総会を 2023 年 5 月 26 日に北里大学大村記念ホール（東京都）で開催した。出席者は 184 名（内、書面表決書 151 名）だった。新型コロナウイルス感染拡大後、対面参加の制限を解除した初めての開催となった。但し、交流会は開催せず、また企業展示は、動画によるプレゼンテーションのみとした。分科会はライブ形式によるオンライン開催としたため総会とは連続した日程にはせず 9 月 22 日に開催した。テーマを「図書館公衆送信サービスと利用者の情報入手行動の変化」とし、鈴木努氏（早稲田大学図書館・国公私立大学図書館協力委員会大学図書館著作権検討委員会主査）、原田隆史氏（同志社大学免許資格課程センター・同大学院総合政策科学研究科教授）にそれぞれご講演いただいた。当日の参加者数は 98 名だった。
- (3) 第 95 回（2024 年度）総会の開催を計画した。2024 年 5 月 24 日に北里大学大村記念ホールで開催することとし、第 94 回（2023 年度）総会と同様、コロナによる規模縮小は解除するが総会の様子をインターネットでも配信する方向で準備を進めた。交流会は行わず、企業展示は動画によるプレゼンテーションを企画、参加企業を募集した。分科会は富田理事、平理事が担当となり、2024 年 10 月までにオンラインで開催する方向で準備を進めた。
- (4) 2023 年度地区会事務局連絡会議を 12 月 1 日に開催した。各地区での地区会や研修会の開催状況について報告があった。電子ジャーナルの購読に関する工夫や地区会運営費用口座の保有について意見が交わされた。
- (5) 2023 年度委員会委員長会議を 2 月 2 日に開催した。各委員会から事業の取り組み

について報告があったあと、出版委員会が構想している既刊書の改訂や教育・研究委員会で課題となっている学術集会での研究発表演題募集について、意見を交わした。

- (6) 韓国医学図書館協会（KMLA）秋季学術大会への派遣及び総会への来賓招聘は中止した。今後の交流についてKMLAに意向を確認したところ、コロナ以前の交流に戻す方向で見解は一致した。
- (7) 地区会会議に理事が出席した。（5月12日近畿、11月16日中国・四国、12月7日近畿）
- (8) オンラインで議決権行使可能なシステムの検討を進めた。要件を総務会でまとめインフォレスタに相談し、実現可能性を検討した。
- (9) 奨学基金の使い方について検討を行った。海外図書館から学べることは多く医学図書館員の資質形成に役立つと思われることから、理事会としては活用しやすいメニューの検討や広報に力を入れる方向で進めることを確認した。
- (10) 中期財政計画検討のため、過去の収入と支出の分析を行った。収入については、これまでの傾向からおおよその見通しを作成できた。一方支出については、コロナ禍を経て事業のあり方、予算の使い方に変化がみられ予測しにくいことから、見通しを立てることはできなかった。中期財政計画を立てるためには、支出の動きをもう少し探る必要があるとの結論となり、分析・検討を継続することとした。
- (11) 役員選出方法について検討するため、12月18日に評議員会を開催し、会長が「現在の日本医学図書館協会の役員定数および選出方法を見直す必要があるかについて」諮問をした。評議員会からの答申をもって、理事会で検討する予定である。
- (12) 関連団体との連携については、全国医書同業会新年互例会挨拶、KMLA機関誌50周年への寄稿など、総務会が協力して対応した。
- (13) 業務精査と合理化、事業の見直しについては常に意識をしているが、2023年度に見直しにつながるような具体的な取り組みはなかった。本会事業の大部分は会員による委員会活動で成り立っているが、いずれの事業も会員や社会への貢献に必要なものと認識している。委員会での事業の取り組み方法は、委員の負担を軽減できるよう配慮をしているつもりであるが、十分と言えるレベルではないと認識しており、負担軽減につながることを意識しながら継続して取り組んでいきたい。

- (14) 2022年度の地区会事務局連絡会議で地区会研修助成費についての見直しの要望があり、検討を進めた。2023年度は特例として使途を限定せず、また助成する金額も上限10万円とし、2023年度にその恩恵を被るような助成費の申請は見られなかった。しかし地区会の活性化は会員貢献にもつながることが見込まれるので、2023年度実績を参考にしながら、2024年度に新しい運用の内規を定めることとした。
- (15) 会員の議決行使権の方法のひとつとして「委任状」という方法が定款に定められているが、委任された会員が総会に出席しないために議決権を行使できていないというケースが毎年みられる。現在は、総会に参加できなくても事前に「書面表決書」を提出することで議決権を行使できることから、「委任状」はできるかぎり使用しないよう、理事会から会員に呼びかけを行った。
- (16) 2022年度に近畿地区会から「委員会活動の抜本の見直し」「会費の見直し」に関する要望書を受け取り、理事会で検討した。どちらも協会運営にとってセンシティブな問題でもあるため意見はまとまらなかったが、「委員会活動の抜本の見直し」については委員の声を聞く方向で方法を検討することになった。「会費の見直し」は単年で減額・増額することは難しいので、コロナ後の本会事業運営を参考にしながら、継続検討することになった。
- (17) 2024年度～2027年度重点事業目標を定めることを理事会で決めた。
- (18) その他、理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

3. その他

- 1) 台湾医学図書館協会から協定締結の提案があり、協定締結に向けた協議を開始することを承認した。協議の際、国際交流ワーキンググループに窓口になってもらうこととした。
- 2) 会員が行っている能登半島地震被災地支援をまとめたサイトを作成した。この支援情報を被災した医療従事者に届けるため、日本病院会に相談し、日本病院会ウェブサイトのお知らせから案内してもらった。
- 3) 会員特典の一環として、2023年4月にすべての会員あてに『わかりやすい医中誌 Web検索ガイド検索事例付 第2版』を1部ずつ配布した。

4. 今後の課題

- 1) 2024年度～2027年度重点事業目標(案)を定める
- 2) オンラインで議決権行使可能なシステムを検討する。
- 3) 奨学基金の使い方を検討する。

- 4) 中期財政計画を検討する。
- 5) 役員選出方法を検討する。
- 6) 業務精査と合理化、事業の見直しを継続して行う。
- 7) 地区会研修助成費の見直し
- 8) 近畿地区会からの協会事業見直しに関する要望を検討する。

5. 事業別報告

1) 医書電子化検討ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 城山 泰彦（順大）

委員 磯本 善男（個人）、河合 富士美（聖路加）、児玉 関
（個人）、小林 飛鳥（個人）、田口 宣行（埼玉大）

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

① 医書ジェーピー株式会社と、「医書.jp eBook アラカルト」に関する意見交換（6月16日：Web開催）

- ・2022年に大学や病院等を対象とした機関向けの電子書籍サービス「医書.jp eBook アラカルト」が開始された。2022年7月29日に医学書院（総代理店）と医書ジェーピー（提供元）と、意見交換の場を設けた。その後の対応状況の確認と、意見交換をおこなった。

② JMPA との懇談（10月25日：聖路加国際大学）

- ・双方があらかじめ用意した議題について、意見交換をおこなった。議題は、電子図書の奥付の記載事項標準化、JMPAに限らず出版界全体で検討が必要な課題、版情報の管理等を総合的に管理する仕組み、ISBNの付与方法、パッケージ契約ではなく買い切り購入の要望、出版に際しての著作権や翻訳料、教科書の電子版の販売と出版割合（冊子と電子）の見通し、JMPAウェブサイトの検索機能と「新刊書案内」など、多岐にわたった。
- ・施設見学として、「聖路加健康ナビスポット：るかなび」と「聖路加国際大学図書館」を案内いただいた。

③ JMPA との懇談（3月15日：Web開催）

- ・双方があらかじめ用意した議題について、意見交換をおこなった。議題は、図書館予算で普及率が高いサービスの傾向、ログ機能の活用と取得したいデータ、コロナ後における電子商品の利用のされ方、情報検索や学習方法の変

化、仮想現実や人工知能といった新しい技術の導入、図書館等公衆送信補償金制度、インボイス制度の影響、冊子と電子の出版の長期的展望など、多岐にわたった。

- ・この懇談の場は、出版社と図書館とが意見交換する場として、出版社の考えを図書館に紹介すること、また図書館の現状や取り組みを出版社に説明することに役立つ機会となっている。今後も年 2 回程度の、懇談の機会を継続していく。

(3) その他の報告

事項なし

(4) 今後の課題

- ① JMPA 及び出版社との意見交換の継続
- ② 電子コンテンツや医学書に関する意見交換
- ③ 電子コンテンツをとりまく環境等に関する意見交換
- ④ 「医書.jp eBook アラカルト」に関する、JMLA からの要望の対応確

2) 著作権問題検討ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事	総務会
グループ長	阿部 潤也 (東歯大)
委員	金谷 直樹 (札医大)、田中 愛子 (旭医大)
オブザーバー	児玉 関 (専務理事・個人)、谷澤 滋生 (事務局長)、 宇佐見 由美 (事務局主任)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

- ① 委員会の開催
メーリングリストにより随時意見交換を実施した。
- ② 総務会が行う著作権問題への対応と体制検討への協力
著作権に関する内規の改定案(著作物の種類、著作者による著作物の使用に関する事項)を作成した。
「患者図書室おススメ資料」の掲示板利用規約案の作成に協力した。
「医学図書館」投稿規程の著作権に係る事項の改定案を検討した。
診療ガイドラインにおける検索式が著作物に相当するかについて検討した。

(3) 今後の課題

- ① 著作権に関する内規改定(著作物の全文転載に関する事項)
- ② 著作物の管理方法検討
- ③ 会員への方針伝達、外部機関への情報発信
- ④ その他、突発的に発生した事案対応

3) 国際交流ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 佐藤 晋巨（聖路加）

委員 佐山 暁子（聖路加）、山下 ユミ（個人）[2023年6月から]

アドバイザー 諏訪部 直子（個人）

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

① 委員会の開催

第1回 2023年9月11日（Web開催）

② 韓国医学図書館協会（以下、KMLA）との連携

JMLA 年次総会への招聘及び KMLA 秋季学術集会への派遣は行わなかった。

KMLA 機関紙 50 周年記念号への寄稿依頼があり、機関紙「医学図書館」編集委員会へ作成を依頼した。

2024年5月の JMLA 総会は短縮プログラムのため次年度の招聘は行わず、代わりに挨拶動画の作成を依頼した。ビジネスミーティングは喫緊の課題がないことから、対面で開催できる時まで延期することとなった。

③ 米国医学図書館協会（以下、MLA）との連携

本会会員が MLA'24 に参加する際に MLA 会員価格で参加できることの周知を行った。

④ 英語での国際交流活動の情報発信

協会賞・奨励賞ページの英語ページ作成のため公開されている日本語ページの翻訳、校正等を行った。

⑤ 海外からの問い合わせ、医学図書館見学希望者への対応

TMLA（台湾医学図書館協会）より協定を結び交流を開始したい旨の連絡を受けメールと Web 会議による話し合いの機会を持った。

⑥ 会員への情報発信

MLA 総会等に関する情報を「国際交流ワーキンググループ便り」としてホームページと会員メーリングリストに3回発信した。

6. その他の実績

1) 会員の動向

入会

正会員 A 大分大学学術情報拠点

正会員個人 10人

維持会員 3人（個人）

退会

正会員 B 東京都看護協会図書館

正会員個人 15人

維持会員 3機関（団体）

2024年3月31日現在の会員数

正会員 A 101機関

正会員 B 44 機関
正会員個人 100 人
協力会員 2 機関
維持会員 13 機関 (団体)
維持会員 6 人 (個人)

2) 助成金

株式会社紀伊國屋書店
株式会社サンメディア

3) その他

資料の共同購入ほか

図書館年鑑 29 冊 458,200 円

磁気テープコンソーシアム 紀伊國屋書店 : 52,000 本 三省堂書店 : 88,100 本

II. 企画・広報委員会

1. 委員

担当理事 阿部 潤也 (東歯大)

委員長 黛 崇仁 (東邦大)

委員 天野 いづみ (静岡赤)、川崎 かおる (岩医大)

ホームページ担当ワーキンググループ

藤沢 靖子 (杏大医・グループ長)、鷹野 祐子 (都医学研)、

水嶋 直子 (順大)

会員統計担当ワーキンググループ

井上 俊子 (神常盤)、梅内 美鈴 (北里白)、滝野 美和子 (田附研)、

徳江 紀子 (国がん)

重複雑誌交換担当ワーキンググループ

唐橋 敦子 (福島医大)

要覧担当ワーキンググループ

曾田 昌弘 (関医大)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 2 月 5 日

2) 国立国会図書館への蔵書寄贈システム

(1) 第 4 回 (2022 年度) 調査

4 館から寄贈の申請があり、162 冊が国立国会図書館へ寄贈された。

(2) 第 5 回 (2023 年度) 調査

2024 年 2 月 1 日に依頼した。

3) ホームページ

- (1) ホームページ更新体制
中央事務局との協働により、遅滞なく対応できている。
 - (2) その他
他委員会からの要請により、掲示板、パスファインダーを導入した。
- 4) 会員統計
- (1) 第 94 次 (2023 年度) 会員統計
完成版をホームページに掲載した。
- 5) 重複雑誌交換
- (1) 第 74 回 (2023 年度) 重複雑誌交換事業の実施
第 1 回 (2023 年 9 月 20 日～10 月 6 日)、第 2 回 (2024 年 2 月 13 日～2 月 29 日) で実施した。
 - (2) 第 73 回 (2022 年度) 交換実績報告書
第 94 次会員統計 (2023 年度) とあわせて実施した。
- 6) 要覧
- (1) 冊子体の発行
「要覧 2022-2023」(2022 年度) の発行は見送られた。
 - (2) 「要覧 2018-2019」変更点のホームページ公開
冊子体発行以降に改訂された規程や名簿等は、組織・制度委員会とホームページ担当ワーキンググループにより、速やかに最新版を本会ホームページ上に掲載している。(冊子とホームページの掲載内容が異なる場合はホームページを優先)
3. 今後の課題
- (1) 会員 ML と会員管理を兼ねた仕組みの検討
会員全員にメールを配信することのできる会員 ML と会員管理を兼ねた仕組みについて、検討を行う。
 - (2) 重複雑誌交換の関連団体との連携
重複雑誌交換の提供資料の集計方法が変更となり、リストが整備されるようになったことから、関連団体との連携について検討を行う。

Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集委員会

1. 委員

担当理事 田口 宣行 (埼玉医大)

委員長 浅野 泉 (個人)

委員 五十嵐 菊美 (東女医大)、石井 恵 (個人)、大野 圭子 (個人)、
工藤 女恵 (個人)、菅 修一 (個人)、半澤 智絵 (個人)、百留 悦子
(埼玉医大)、藤村 三枝 (滋医大)

編集協力委員 樋口 陽子 (北大)、千葉 基弘 (岩医大)、相澤 まゆみ (市川崎
病)、永井 登志江 (新大旭)、榊原 佐知子 (愛医大)、松本 蘭 (関医

大)、池 由美子 (高大医)、松田 綾 (長大医)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 12月18日 (オンライン)

2) 「医学図書館」(年4号)の発行

(1) 定期刊行を維持した。

①70巻2号 (2023.7.15) 特集「第37回医学情報サービス研究大会 MIS37」

②70巻3号 (2023.9.25)

③70巻4号 (2023.12.20) 特集「第7回JMLA コア研修」

④71巻1号 (2024.3.20) 特集「図書館の移転・改修：図書館員の経験、知恵、理想を詰め合わせる」

3. その他の報告事項

1) 2023年度の開始にあわせて欠員1名を補充することができた。10月には増員のためJMLAの4委員会、2WGによる委員の合同募集を行った。

2) 韓国医学図書館協会から機関誌「Journal of Korean Medical Association」創刊50周年記念誌への寄稿依頼を受け、祝辞とともに論題“Roles and editing tasks of Japan Medical Library Association official journal 「IGAKU TOSHOKAN」”を委員会として寄稿した。

3) 協会賞・奨励賞委員会のWebサイト英語発信にあたり、依頼に応じて本誌掲載の過去の受賞作品の英文タイトル、英文抄録の収集に協力した。

4) コロナ禍の影響を受け、遅れる傾向にあった編集作業スケジュールの適正化に注力した。

5) 来年度から編集費が大幅に上がることになった (25%増、約100万円増額)。

4. 今後の課題

1) 引き続き各委員の業務バランスを考慮して委員の増員を試みる。

2) 謝金の支払い条件の見直しを検討する。

IV. 出版委員会

1. 委員

担当理事 城山 泰彦 (順大)

委員長 吉新 裕昭 (獨協医大)

委員 榊原 佐知子 (愛医大)、片岡 理子 (国医情)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 2月 1日

適宜、メール・メーリングリストにより、情報共有・審議等をおこなった

2) 出版について

(1) 『わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド検索事例付 第2版』の出版

医中誌 Web の新バージョンに対応した新版の発行について、著者および医学中央雑誌刊行会のご協力のもと完成した。約 10 年ぶりとなる改訂版として、2023 年 3 月 29 日に刊行した。

JMLA の出版物として、初めて冊子・電子を同時に刊行した。

2023 年 4 月に、機関会員・個人会員に 1 冊ずつ配付した。

3. その他の報告事項

1) 新出版物の検討

検討を進めている。

2) 販売方法追加の検討

冊子・電子とも新たな販売ルートを確保すべく、検討を進めている。

4. 今後の課題

1) 新出版物の検討

2) 販売方法追加の検討

V. 学術情報コンソーシアム委員会

1. 委員

担当理事 富田 麻子 (日医大中)

委員長 田口 宣行 (埼玉大)

委員 江幡 歌奈子(東邦大)、鷹野 祐子(都医学研)、三浦 さと子(帝京大医)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 6月23日 (対面開催)

第2回 1月17日 (対面開催)

2) コンソーシアム提案交渉

日本薬学図書館協議会 (Japan Pharmaceutical Library Association : JPLA) と共同で、保健・医療分野に特化した内容のコンソーシアム契約モデルおよびコンソーシアム契約価格に関して、出版社や版元と交渉を進めた。一部の製品については、大学図書館コンソーシアム連合 (Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources: JUSTICE) と合同で交渉をおこなった。対面とオンラインによる会議8回、その他メールで交渉を行った。提案は 19 社で、提案数は 75 件。内訳は、大学向け提

案 60 件、病院向け提案 56 件、その他研究機関向け提案 35 件、企業向け提案 34 件であった（重複あり）。

3) コンソーシアム提案の充実

ジャーナルやブックだけでなく、転換契約や購読ジャーナル分析ツールといった新しい提案も含まれた。

4) コンソーシアム提案開示

2023 年もコロナ感染の影響を考慮して、ウェブサイト上で提案各社のプレゼン動画を公開し、会員が各社と直接交渉できるように問い合わせ窓口情報の案内を行った。

5) トライアルの実施

コンソーシアム提案以外でも、会員に有意義と判断した商品は、トライアルとして紹介をした。

6) 雑誌、電子リソースの契約等に関することについての活動

代理店の対応など、会員からの相談に応じた。特に病院部会のアンケート結果への対応を行った。

3. その他の報告事項

1) 円安対応

2022 年の円安の影響について会員にアンケート調査を実施し、版元との交渉時に状況を伝えた。見積時期には 2022 年よりもさらに円安が進む事態となったため、会員館に対してコンソーシアム提案を取り巻く状況説明と契約の対応についての呼び掛けを行った。

2) コンソーシアム説明会と提案に関するアンケートを正会員 A、B を対象に実施した。

3) コンソーシアム成立件数の調査を行った。

4. 今後の課題

1) 電子ジャーナルだけでなく転換契約の登場など、今後のコンソーシアム提案のあり方を協議していく。

2) 委員が不足している現状で、提案各社との交渉や説明会をどう運営していくのかを早急に検討しなければならない。

VI. 教育・研究委員会

1. 委員

担当理事 加藤 砂織（東女医大）

委員長 西村 志保（日医大中）

委員 石田 綾子（岐大医）、大瀬戸 貴己（奈医大）、大屋 玲奈（獨協医大）、菊地 元子（国病文献）

JMLA コア研修ワーキンググループ

グループ長 角田 ともえ（東海大伊）

- 委員 埴 清楓（聖マ医）、平山 紀子（久大医）
- JMLA 学術集会ワーキンググループ**
- グループ長 白土 裕子（医中誌）
- 委員 廣瀬 瑛子（北里白）、根本 萌（北大）
- E-ラーニング作成ワーキンググループ**
- グループ長 大崎 泉（慈恵大）
- 委員 笹谷 裕子（杏大医）、清水 ゆかり（杏大医）、成田 ナツキ（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

教育・研究委員会（すべてWeb 開催）

第 1 回 7 月 28 日

第 2 回 12 月 20 日

JMLA/JPLA 合同教育・研究委員会（Web 開催）

第 1 回 9 月 25 日

JMLA コア研修ワーキンググループ会議（すべてWeb 開催）

第 1 回 10 月 5 日

第 2 回 12 月 14 日

JMLA 学術集会ワーキンググループ会議（基本Web開催）

第 1 回 6 月 14 日

第 2 回 7 月 25 日

第 3 回 9 月 28 日

第 4 回 11 月 22 日（運営リハーサル）

第 5 回 11 月 30 日（全体リハーサル／対面・Web併用開催）

第 6 回 2 月 15 日

E-ラーニング作成ワーキンググループ会議

第 1 回 9 月 8 日（Web 開催）

第 2 回 11 月 28 日（対面・Web併用開催）

第 3 回 3 月 5 日（収録）

2) 第 7 回 JMLA コア研修開催

日程：2023 年 8 月 1 日（火）～8 月 21 日（月） 21 日間

形式：オンライン（オンデマンド）開催

受講者数：77 名（JMLA 52 名、JPLA 2 名、非会員 23 名）

・非会員の参加が増加傾向にある（公共図書館 5 名、大学図書館 4 名、国立国会 1 名、その他・所属なし 13 名）。

・JMLA コア研修 FAQ(よくある質問)を公開 <https://jmla1927.org/core.php?q=208>

3) 第 7 回 JMLA 学術集会開催

日程：2023 年 12 月 8 日（金）9：20－16：50

形式：オンライン（ライブ）開催 Zoom ウェビナー

午前：研究発表 4 題（発表：事前収録動画のライブ配信 質疑応答：ライブ）

午後：CE コース 文献検索演習中級 2023「医中誌 Web/PubMed」／統計の基礎知識（ライブ配信）

※午前、午後とも質問は Zoom の Q&A 機能を利用

受講者数：71 名（JMLA 69 名、非会員 2 名）

研究発表 52 名（JMLA 52 名、JPLA /非会員 なし）

CE コース 58 名（JMLA 56 名、JPLA なし、非会員 2 名）

・JMLA 学術集会プログラム・抄録（オンラインジャーナル）を作成し、公開した。

<https://jmla1927.org/publish.php?q=9286>

4) 第25回図書館総合展イベント開催（JMLA/JPLA 共催 主担当：JPLA）

日程：2023年11月14日（火）13:30－15:00

形式：オンライン（ライブ）開催 Zoom ウェビナー

テーマ：歴史を通してみるNLMの役割－変化と発展－

講師：山口 直比古氏（聖隷佐倉市民病院図書室）

参加者数：108名（JMLA 58名、JPLA 13名、その他 37名）参加証明書発行：38枚

・講演動画を制限なしで公開 <https://www.youtube.com/watch?v=815WL6Y2ih4>

5) 助成募集

(1) 研究助成

2024 年度の募集を行ったが、応募はなかった。

(2) 海外研修助成

2024 年度の募集を行ったが、応募はなかった。2023 年度受給者による研修報告を第 95 回通常総会で行う。

(3) その他

2022 年度研究助成費受給者より「協会助成による研究の計画変更承認願ひ」が提出され、研究期間の延長が認められた。

6) JMLA-CE コース登録の実施

2023 年度は、9 件の申請を受け付け、審査後、認定資格運営委員会にポイント数を確認の上、JMLA-CE として登録した。一覧を本会ホームページに公開している。

「JMLA-CE コース登録一覧」 <http://jmla1927.org/core.php?q=240>

7) E-ラーニングコンテンツの作成と公開

コンテンツ「医中誌WebとPubMed検索」を2024年3月に公開した（医学中央雑誌刊行会受託事業費による作成）。

VII. 医療・健康情報委員会

1. 委員

担当理事 児玉 関（個人）

委員長 岡田 光世（東邦大）

委員 赤石 知香（青森保健大）、及川 はるみ（聖路加）、折井 匡（個人）、

中嶋 吏栄（個人）、西 さやか（東医大）、渡邊 基史（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第1回 6月 26日（Web開催）
- 第2回 9月 11日（対面&Web開催）
- 第3回 11月 27日（対面&Web開催）
- 第4回 3月 11日（対面&Web開催）

2) 「患者図書室おススメ資料紹介」の管理運用

(1) 「患者図書室おススメ資料紹介利用規約」の作成

- ・Webサイトの適切な運営管理ができるよう「利用規約」を作成し、2023年11月に公開した。

3) 医療・健康情報ブックリストの試行

(1) 名称変更について

- ・当初は疾患別のパスファインダー集を想定していたが、内容がおススメ資料紹介の意味合いが強いことから、「医療・健康情報ブックリスト」に名称を変更した。

(2) 作成マニュアル・テンプレートの確認

- ・作成マニュアルと作成用テンプレートを委員以外のJMLA会員に確認してもらい、その意見や感想を参考にして内容を修正した。

(3) テストページ作成・公開

- ・ホームページワーキンググループ、シータイムの協力を得てテストページを作成し、画面表示や動作の確認をおこなった。
- ・2023年12月にJMLA会員向けに公開し、試験運用を開始した。

4) 「患者図書室おススメ資料紹介」、「医療・健康情報ブックリスト」の利用促進を目指した広報

- ・「患者図書室おススメ資料紹介」の広報と「医療・健康情報ブックリスト」の概要と今後の委員会活動について、機関誌「医学図書館」に記事を投稿し、掲載された。
西 さやか. 医療・健康情報をより多くの人の手に：医療・健康情報委員会の取り組み. JMLA 活動報告. 医学図書館. 2023;70(3):149-152

5) JMLA コア研修（コア6）講師

- ・渡邊委員が担当し、無事に終了した。
- ・受講者1名から“「認知症の方へのメンタルサポート、生活サポート」「思春期から青年期の心身のサポート」に関する資料を紹介してほしい”という質問が寄せられ、委員会で相談のうえ回答した。

6) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討

- ・2023年度は着手できなかった。

7) 医療・健康情報関連研修への講師派遣

- ・2023年度は依頼がなかった。

8) 全国患者図書室実態調査（仮）の計画

(1) 調査目的と対象施設

- ・全国の患者図書室の現状を調査するため、長野県内の実態調査を先行している折井委員、中嶋委員を中心に、調査目的、調査対象、病院に関するデータの作成方法を検討した。

(2) アンケート案

- ・アンケートの目的を明確にし、質問項目と実施方法について検討した。

(3) 調査時期について

- ・2024年度中の実施を目指すこととした。

3. 今後の課題

1) 全国患者図書室実態調査の実施

- ・調査対象となる病院のデータを入手して、一覧リストを作成する。
- ・アンケート内容と実施方法を確定し、2024年度中に調査を実施する。

2) 医療・健康情報ブックリストの正式公開

- ・試験公開している Web ページへの意見などを参考にして、レイアウトや運用マニュアルを修正する。
- ・ブックリスト投稿依頼の状況をみながら、正式運用に移行する時期を検討する。

3) 「患者図書室おススメ資料紹介」を活性化させる方策の検討

- ・おススメ資料の投稿が増えるよう方策を検討する。

4) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討

- ・「患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化」に関する事業計画を再検討する。

VIII. 認定資格運営委員会

1. 委員

担当理事 小林 晴子（個人）

委員長 北川 正路（慈恵大）

委員 寺升 夕希（滋医大）、中島 裕美子（埼医大）、

永田 治樹（筑波大学名誉教授）、橋本 郷史（東邦大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 9月19日

第2回 3月21日

2) 申請募集と認定審査

(1) 第40回募集（2023年7月受付、9月認定）

審査件数：4件（基礎4名、中級0名、上級0名）

認定件数：4件（基礎4名、中級0名、上級0名）

(2) 第41回募集(2024年1月受付、3月認定)

審査件数: 20件(基礎18名、中級1名、上級1名)

認定件数: 20件(基礎18名、中級1名、上級1名)

(3) 資格取得者の現存数

第41回認定後 565名

(基礎551名、中級7名、上級7名)

3) 申請の促進

(1) 関連団体への案内

- ・関連団体機関誌、メーリングリストへの情報発信
- ・ポスター、チラシの配布

(2) 「ヘルスサイエンス情報専門員」ウェブサイトの更新

(3) 促進グッズ(バッジ、クリアファイル)の活用

(4) 申請予定者からの問合せへの対応

4) 各種イベントのポイントの事前確認

5) アンケート作成

6) 医学図書館機能評価案作成の着手

3. その他の報告事項

1) ポイントの見直し、認定資格制度の評価についての意見交換

4. 今後の課題

1) 専門職能力開発プログラムの見直し

関連する委員会と協力し、情報収集や整理等を行い見直しに向けた準備を進める。

2) ウェブサイトの更新

申請者が申請時の疑問を解消しやすくし、また、申請にかかわる業務の負担を軽減するために、Q&Aの充実を図る。

IX. 受託事業委員会

1. 委員

担当理事 佐藤 晋巨(聖路加)

委員長 佐藤 晋巨(聖路加)

委員 総務会兼務

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- (1) 委員会としては会議を持たず、総務会で全体を統括した。
- (2) それぞれの事業はワーキンググループを組織するなどして活動した。

2) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ、診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

※詳細は事業別報告を参照

3) 医学中央雑誌刊行会受託事業

- (1) 教育・研究委員会により E ラーニング動画「医中誌 Web と PubMed の検索」の作成を行った。
- (2) 2024 年度以降の受託事業について医学中央雑誌刊行会の受託事業担当者らと相談の機会を持った。
- (3) 2024 年度の受託事業を募集した。

3. 今後の課題

1) 新規受託事業の検討

4. 事業別計画

1) 診療ガイドラインワーキンググループ

担当理事 佐藤 晋巨（聖路加）

グループ長 阿部 信一（慈恵大）

委員 石井 恵（個人）、柿田 憲広（個人）、加藤 恵子（国がん）、河合 富士美（聖路加）、工藤 女恵（個人）、小嶋 智美（個人）、小林 飛鳥（個人）、小林 晴子（個人）、佐藤 正恵（個人）、鈴木 孝明（奈医大）【2023 年 5 月末まで】、諏訪部 直子（個人）、曾根 麻里（静社健大）、高崎 千晶（個人）【2023 年 8 月まで】、寺澤 裕子（個人）、成田 ナツキ（個人）、森正 智子（昭和大）、山口 直比古（個人）、山崎 むつみ（静岡がん）、山下 ユミ（個人）、吉原 理恵（個人）、愛知医科大学総合学術情報センター（代表：榊原 佐知子）、岩手医科大学附属図書館（代表：川崎 かおる）、大阪公立大学阿倍野医学図書館（代表：中橋 巧也）、杏林大学医学図書館（代表：藤沢 靖子）、慶應義塾大学信濃町メディアセンター（代表：本井 恵理子）、滋賀医科大学附属図書館（代表：八木澤 ちひろ）、信州大学附属図書館医学部図書館（代表：滝口 智子）、東京慈恵会医科大学学術情報センター（代表：阿部 信一）、東邦大学メディアネットセンター（代表：大谷 裕）、奈良県立医科大学附属図書館（代表：大瀬戸 貴己） 【下線＝リーダー】

(1) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

リーダー会 開催無し

ワーキンググループ会議 2024年3月15日

②受託状況

16件のガイドラインを新規に受託した（別表参照）。作業可能な件数に絞るため中止期間を設けて調整した。（2024年2月5日より受付中止）

③委員会関係文書の整備

本会の運営するクラウドサーバに保存する文書と掲載をすすめた。

④検索体制強化の検討

検索担当者、リーダーの増員が課題となっているが解決には至っていない。

Bunkanの改修は継続検討となった。Bunkanは利用するPCのOS、ソフトのバージョン等により不具合が生じている。また、マクロ付きファイルの利用や送信についてセキュリティ面でのリスクが懸念される。検討ではBunkanを利用することの利便性と改修にあたっての課題（改修費用と改修を担当する人材）を確認した。

(2) 今後の課題

事業継続と体制の検討

2) 診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 佐藤 晋巨（聖路加）

グループ長 阿部 信一（慈恵大）

委員 石井 恵（個人）、榊原 佐和子（愛医大）、佐藤 正恵（個人）

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 2023年6月22日

②ワークショップの開催

講演会 2023年12月14日 10:00～11:00 Web開催 参加者55名

ワークショップ 2024年1月19日 9:20～16:30 Web開催

参加者 受講生20名、他グループリーダー5名

③運営マニュアルの更新

オンラインでの開催方法を改定した。

④受講者館の受講の前提となる知識や経験の差を埋める方法の検討

進捗無し。

(3) 今後の課題

開催方法の検討

別表

2023年度 受託診療ガイドライン実績一覧		
受託番号	ガイドライン名	学会名
GL2301	ホルモン補充療法ガイドライン	日本女性医学学会
GL2302	サルコペニア・フレイル栄養管理ガイドライン	日本臨床栄養学会・日本サルコペニア・フレイル学会
GL2303	皮膚血管肉腫診療ガイドライン	日本皮膚科学会
GL2304	メルケル細胞癌診療ガイドライン	日本皮膚科学会
GL2305	成人小児進行固形がんにおける臓器横断的診療ガイドライン改訂第3版補遺版	日本臨床腫瘍学会
GL2306	乳房外パジェット病診療ガイドライン	日本皮膚科学会
GL2307	皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン改訂第4版 有棘細胞癌の診断と治療ガイドライン	日本皮膚科学会
GL2308	皮膚リンパ腫診療ガイドライン	日本皮膚科学会
GL2309	皮膚悪性腫瘍ガイドライン第4版 メラノーマ診療ガイドライン	日本皮膚科学会
GL2310	認知症のリスク低減等のための非薬物療法指針	高知大学 医学部神経精神科学講座
GL2311	基底細胞癌診療ガイドライン	日本皮膚科学会
GL2312	卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン	日本婦人科腫瘍学会
GL2313	認知症疾患診療ガイドライン	日本神経学会
GL2314	大腸憩室症(憩室出血・憩室炎)ガイドライン	日本消化管学会
GL2315	同時動注化学陽子線治療ガイドライン	日本放射線腫瘍学会 (粒子線委員会)
GL2316	肺癌診療ガイドライン 2024年版	日本肺癌学会

X. 協会賞・奨励賞選考委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子（個人）

委員長 石井 保志（個人）

委員 石立 裕子（個人）、首東 誠（個人）、掘米 拓哉（日大歯）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 10月14日（Web開催）

第2回 2月9日（Web開催）

第3回 2月22日（メール開催）

2) 2023 年度協会賞・奨励賞の選考

第3回、第4回選考委員会で候補業績を選考し、後日、理事会報告を行った。

3) 英文 HP 作成

ホームページ担当ワーキンググループへ協力を得て、協会賞・奨励賞の受賞者一覧の英文 HP を作成、両賞ブランディングの向上に資する情報発信準備を行った。

① ホームページ担当ワーキンググループにより翻訳とサイト案を作成してもらった。

② 協会賞・奨励賞の英文 HP により、賞の紹介および過去受賞者一覧の英文書誌事項を掲載準備を行った。

③ 受賞者・対象文献の英文目次取得に医学図書館編集委員会の協力を得た。

④ サイト案が固まった段階で理事会等へ報告を行い、公開を予定。

4) 医学図書館誌への委員会紹介

70 巻 3 号の「広場」欄へ協会賞・奨励賞選考委員会に本委員会の紹介を執筆した。掲載記事は以下のとおり。

石井 保志. 協会賞・奨励賞選考委員会. 医学図書館 70 (3), 141-142, 2023-09

5) 新委員の欠員補充を試みたが、叶わなかった。

3. 今後の課題

1) 委員の欠員補充

2) 協会賞・奨励賞のブランディング (英文 HP の公開)

3) 選考ガイドラインの策定

X I . 組織・制度委員会

1. 委員

担当理事 土田 壮一 (金医大)

委員 加藤 恵子 (国がん)、館野 雅之 (岩医大) [12月1日から]、

森田 創平 (北里医)

オブザーバー 加藤 晃一 (千大図)、河合 富士美 (聖路加)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催 (すべてWeb開催)

第1回 6 月 19 日

第2回 8 月 2 日

第3回 2 月 27 日

2) 本会諸規則の制定及び改定

以下の規程類の制定及び改定作業を行った。（現在作業中のものを含む。）

(1) 制定作業

①患者図書室おススメ資料紹介利用規約

(2) 改定作業（軽微な修正は除く。）

①著作権に関する内規

(3) その他

①定款、規程、細則、内規の序列について検討し、序列に合わない規程以下の名称を変更した。

②表記の統一、内容をより明確に示すため、規程以下の名称を変更した。

③規程以下の名称の変更に伴い、根拠規定を示す条文を変更した。

④入退会並びに入会金及び会費規程について、構成を見直すと同時に、別表入会金及び会費一覧の改廃について、「総会の議を経て行う。」を明記した。

⑤総会運営規程について、表決権について定める第12条に「3 総会における書面表決等は、定款第29条の規定を準用する。」を追加した。

⑥中央事務局規程について、第6条の事務分掌を全面改定した。また、中央事務局規程の条文を根拠とする関連規程類の条文について、併せて変更した。

3. その他の報告事項

改定された規程類については、最新版を本会ホームページへ掲載する。

4. 今後の課題

1) 諸規則の制定及び改定作業の迅速化を図る。

2) 規程全般に渡る整合性を確認し、体系化を図る。

3) 規程類の用語及び表記、並びに各種申請書の様式の統一を図る。

4) 総会での書面表決において会員からいただいたご意見に関し、検討する。

XII. 部会 病院部会

1. 委員

部会長 加藤 恵子（国がん）

委員 泉 峰子（科学院）、春日井 泉江（名記念）、小林 飛鳥（個人）、
下山 朋幸（NCNP）高崎 千晶（個人） [8月10日まで]、
成田 ナツキ（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 幹事会の開催

第1回 6月15日 (Web開催)

第2回 2月16日 (Web開催)

第3回 3月2日 (対面開催)

2) 定例会の開催

8月19日

3) 見学会の実施

今年度は実施しなかった。

4) 研修会の実施

3月2日 国立がん研究センター

「医学用語を学ぶには：医学図書館員の財産であり商売道具である専門用語を
自分のものにする方法」

「地域包括ケアシステムにおける病院図書室の役割を考える」

「情報交換」

参加：会員12人

3. その他の報告事項

なし

4. 今後の課題

1) 研修会、見学会の実施

2) 幹事の補充